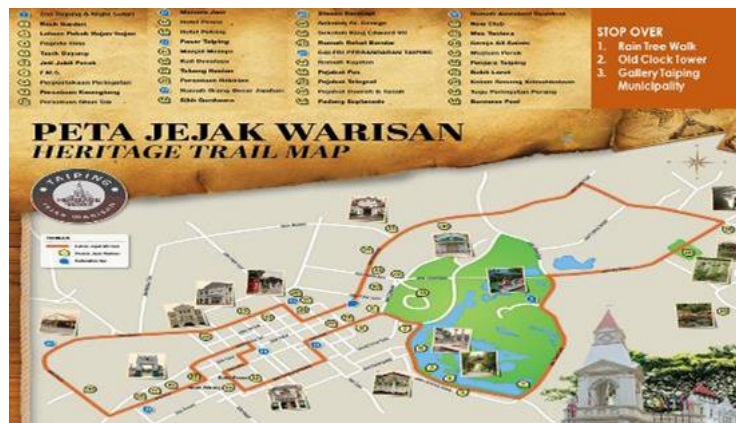


脱炭素社会実現に向けた電気バスシステムの運行開始

日本の株式会社ピューズ(PUES) (神奈川県) が、ペラ州タイピン市で、JICA 中小企業・SDGs ビジネス支援事業¹の枠組みで実施している「低公害型公共交通向け中型電気バスシステム普及・実証事業」で導入した電気バスの運行が正式に始まり、運行式が9月14日(木)に開かれました。電気バスは、歴史的遺産が集中するTaiping Heritage Areaの、市の自然・歴史遺産を巡る観光コースの整備が進められているTaiping Heritage Trailにおいて、タイピン市との協力のもと実証走行が開始されています。

このルートは11.5km、名所は40か所、途中バス停は3カ所設けられており、電子バス用急速充電器(1基)は、タイピン動物園に設置されています。



この普及・実証事業は、以下の3点を目的にしています。

- ① マレーシア国の車両基準に準じて製造した電気バスの実証運行を通じた、環境面(CO₂排出削減効果の評価等)及び財務面(ディーゼルバスと比較した費用の評価等)における有効性の検討
- ② 電気バス事業の運営・管理体制構築(運行・維持管理マニュアルの策定及び研修実施)
- ③ 電気バス事業モデル確立と普及活動

この事業を通してエネルギー・環境性能面で付加価値の高い製品を日馬企業連携によりマレーシアに普及展開することで、日本の高い電気バス技術の移転や公共交通運営に係る行政・産業人材育成といった成果も見込まれています。

¹ 中小企業・SDGs ビジネス支援事業は、開発途上国の課題解決に貢献する本邦民間企業等のビジネスづくりを支援します。JICAは政府開発援助(ODA)を通じて築いてきた開発途上国政府とのネットワークや信頼関係、ノウハウ等を活用し、価値の共創に取り組めます。

参考 URL: https://www.jica.go.jp/activities/schemes/priv_partner/about/outline.html



この中型電気バスは以下のような特徴があります。

- ① 優れた環境性能（走行中の大気汚染物質の発生ゼロ）
- ② 高エネルギー効率、高性能
- ③ 現地企業との分業による高い価格競争力
- ④ 汎用性の高いミドルサイズ（9メートル、定員50人）

引き渡し式の様子



左から NCER 代表ザキ・サマン氏、州議員オング氏、タイピング市カイリル・アミール市長、日本大使館の細見書記官、JICA 代表の稲垣次長、PUES 社の宮下氏、Dream Edge 社のダトゥ・カイレル氏

本事業終了後、株式会社ピューズは、同社の提供する電気バスの製造技術とそれに必要な主要部品を使って電気バス製造を担うパートナー企業と共に、マレーシアを含めて東南アジアにおける電気バスの社会実装を推進する計画です。それにより公共交通の低炭素化と言う喫緊の社会課題解決へ貢献を目指します。

【概要】

- 事業名：低公害型公共交通向け中型電気バスシステム普及・実証事業
- 対象地域：ペラ州タイピン市
- 実施団体：株式会社ピューズ(PUES)社（神奈川県）
- 相手国実施機関：ペラ州タイピン市
- 事業期間：2016年9月-2024年2月（予定）

■ 問い合わせ先

【本件に関する問い合わせ先】 JICA マレーシア事務所 Tel : +60-3-2166-8900 E-mail : oba.mikiko@jica.go.jp	【電気バスに関する問い合わせ先】 株式会社ピューズ Tel : 045-470-1001 E-mail : miyashita.izumi@pues.co.jp
--	--